

東丹沢方面:「令和7年度自然再生事業研修(第1回)」

令和7年10月14日(火)

＜「令和7年自然再生事業研修(第1回)」に参加しました＞

- 自然環境保全センターの所内研修にパークレンジャーも参加しました。今回の研修は、宮ヶ瀬湖上流に位置する丹沢県有林の長尾尾根の境沢林道沿いで行われました。境沢林道周辺では以前から企業と連携した取組が行われてきました。令和7年度からは新たにモデル地域として所内各課や外部との連携により溪畔林の整備や人工林の植替え、シカ対策などの各種自然再生の取組を集中して行い、普及啓発にも利用する予定があります。



境沢林道終点にて説明

- 午前中は林道沿いにある溪畔林の整備や人工林の若返り(植替え)、企業連携の現場を視察しました。溪畔林では、本来かく乱によって多様な植生がある場所を人工林になっているため、徐々に多様な植生へと回復、モニタリングを行っています。一方、山側では林道に近く収益性が高い林分のため、人工林の若返りを検討しています。



溪畔林整備の説明

溪流生態系に配慮した整備を実施してモニタリングを行っている。ここで整備手法を確立し、普及啓発できるよう検討している。



山側の森林整備の説明

今後主伐を行う予定の林分。伐採・植替え後の生産目標を定め、どのように植替えを行うか実際の林分の様子を観察して考える。

●午後からは作業道に入り、おおよそ 40 年前に植栽された森林整備の現場を歩きました。
スギ・ヒノキ人工林の様子だけではなく、コンクリート構造物を使わない法面補強やスギ
ヒノキ以外の樹種の人工林、優良木の検定林など様々な取組を見ることができました。



木製の法面補強

コンクリート構造物は法面を覆ってしまうが、格子状の木製枠で法面を抑えることで
植生が回復し、枠も自然に還る。



優良木の検定林内

成長や材質、病害虫に対する抵抗性など形質に優れた木を県内から選び、改良する方法があります。優良木の選定のために、同じ地域に植栽し、10 年ごとにモニタリングを行っている林。



カツラの植栽木がある植生保護柵

林冠が明るいため下層植生が繁茂している



人工林内にある植生保護柵

左写真と同一斜面にある人工林の植生保護柵。同じ斜面にあるにもかかわらず林内が暗いため下層植生が少ない。



クマが倒木をはいだ跡

腐食した倒木の中や下にいるアリやカマドウマを探した跡。イノシシの可能性もあります。